

咬合医科学入門（玉置勝司）

Introduction to Occlusion Medicine (Katsushi Tamaki)

キーワード

- ① 全身管理医歯学
- ② 顎咬合機能回復補綴医学
- ③ 咬合, 顎関節, 咀嚼筋, 下顎運動, 咬合再構成
- ④ 脳機能, 自律神経機能
- ⑤ 心身医学的医療面接

授業概要

歯科補綴学における咬合の歯科学および医科学的意義に関する基礎的な講義を行う。歯科学的には咬合の基盤となる顎関節の解剖、咀嚼筋の解剖と活動、そしてそれらの協調の結果現れるスタティックな咬合様式とダイナミックな下顎運動を学び、顎口腔系における咬合のリハビリテーション手法を理解する。医科学的には、咬合が影響する高次脳機能および自律神経機能に関する基本的知識を学び、咬合条件が生体に与える影響を理解することを目的として開講する。

授業科目の学修目標

歯科医学における咬合の意義について学修する。歯科医学における咬合の意義とその構築手技についてシーケンシャル咬合をベースに修得すること、医科学における咬合の意義とその関連性を修得することを目標とする。

授業計画

- ① シーケンシャル咬合の基本 8コマ 玉置勝司
- ② 顎関節症・口腔顔面痛・歯科心身医学の基本 8コマ 玉置勝司
- ③ 咬合と高次脳機能の基本 4コマ 玉置勝司
- ④ 積層造形法による義歯製作のコンセプト 2コマ 玉置勝司
- ⑤ フレイルの予防・脱却を目指す健康増進支援システムのコンセプト 2コマ 玉置勝司
- ⑥ モダン咬合学のコンセプト 2コマ 玉置勝司
- ⑦ 咬合治療に関する倫理教育 4コマ 玉置勝司

教科書および参考書

1. 咬合のサイエンスとアート Martin Gross
2. サイコ・デンティストリー 和気裕之
3. 顎関節症 日本顎関節学会編
4. 口腔顔面痛の診断と治療ガイドブック 日本口腔顔面痛学会編

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

授業項目に関連する代表的な論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① シーケンシャル咬合の意義を理解し、その基本を説明できる。
- ② 顎関節症・口腔顔面痛・歯科心身医学の基本を説明できる。
- ③ 咬合と高次脳機能の基本を理解することができる。
- ④ 積層造形法による義歯製作のコンセプトを説明することができる。
- ⑤ フレイル、オーラル・フレイルに関する基本を説明できる。
- ⑥ モダン咬合学の基本を説明できる。
- ⑦ 咬合治療に関する倫理規範を理解し応用することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回70%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

理想的な達成レベルは80%以上とする。